
交差箱のハーモニー

ディゴッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

交差箱のハーモニー

【Nコード】

N7585X

【作者名】

デイゴッド

【あらすじ】

この箱は様々な物が入り交じり、色々な音色を奏でている……。

とまあシリアスな発言は置いておき、これは私が考えた小説のネタと短編小説倉庫です。

小説ネタの内容は、クロスオーバーや原作ブレイクものなど多種多様なものです。

あくまでネタの草案ですので、設定の甘さもありませんがその部分は優しく見守ってください。

後、このネタを使ってみたいとか言うのがあれば感想覧に、“このネタを使いたいのですが”と言う事を書いてくれれば、どうぞ使っても構いません。もしかしたら稀な確率で、たまに続きを書いたりしているかもしれせん。

尚、独立した場合は此処に載ってあるのは削除します。（其処の理解も宜しくお願い致します。）

また先程も言いましたが、小説のネタ以外にもふと思いついた短編小説も掲載する予定です。（その際には、前書きにも“この作品は短編小説です”と明記しておきます。）

初心者ではありますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

この作品に関する説明

これは私が考えた小説のネタと短編小説倉庫です。

小説ネタの内容は、クロスオーバーやオリ主ものなど多種多様なものです。

あくまでネタの草案ですので、設定の甘さもありませんがその部分は優しく見守ってください。

後、このネタを使ってみたいとか言うのがあれば感想覧に、“このネタを使いたいのですが”と言う事を書いてくれれば、どうぞ使っても構いません。もしかしたら稀な確率で、たまに続きを書いたりしているかもしれません。

尚、独立した場合は此処に載ってあるのは削除します。（其処の理解も宜しくお願い致します。）

また先程も言いましたが、小説のネタ以外にもふと思いついた短編小説も掲載する予定です。（その際には、前書きにも“この作品は短編小説です”と明記しておきます。）

初心者ではありますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

心に残っていたのは、永遠に届くことのない貴方への想い。(ガンダム00

今回2回目の投稿です。

今回はふと思い付いたガンダム00の短編小説で、内容は2ndの20話後のリヴァイヴとヒリングの話です。

尚、この話には若干のリヴァアニューの要素もあります。

心に残っていたのは、永遠に届くことのない貴方への想い。(ガンダム00)

「まさかアニニューがやられるなんてね…」

「愚かな奴だ。人間なんかと恋に堕ちるから命を落とすのだ」

口ではそう言っているものの、私の心の中の言い表せない何かは消える事は無かった。

「リヴァイヴ…そう言って割には何でさっきから泣いてんのよ」

泣いてる？

私があんな愚かな片割れの為に？

そう言っつて頬を触ると――――

「え……」

その手に付いていたのは冷たい涙の雫。

どうして？

なぜ涙が溢れてくるんだ？

最初はわからなかったが、暫くしてその理由がわかった。

ああそうか。

私は好きだったんだ。

彼女の――

アニユール・リターナーの事がこの世界中の誰よりも好きだったんだ。

そして、その彼女はもうこの世にいない。

それが悲しいから私は泣いているんだ。

「ハハハ……ハハハハハ……アニュー……アニューウウウウ……」

何て滑稽な事だろう。

失ってから彼女へのこの気持ちに気付くなんて。

本当は自分自身でも分かっていた。

でも認めたくなかった。

彼女があんな奴の手を取ったのをが悔しかったから。

だから彼女にあんな冷淡にしか相手をしなかった。

アニー

出来る事ならあつて謝りたい。

そしてこの気持ちを伝えたかった。

だけど彼女はもういない。

私の心にあつたのはもう届かない彼女への想いだけだった。

心に残っていたのは、永遠に届くことのない貴方への想い。(ガンダム00

00のセカンドシーズンの20話と21話を見ていて、「アニユーが亡くなった時のイノベイダー側(特にリヴァイヴ)の様子」が頭に浮かんだので唐突に書きました。

私の中のリヴァイヴは仲間想いな感じで、20話でアニユーに対してあんな冷淡だったのは作戦の失敗もそうだけど、本当は心の何処かでライルにアニユーを取られたのが嫌でその現実を認めたくなかったのではと言うイメージです。

正直、口調に関してはアニメを見ていたので覚えています。上手く表現できたかは自分でも正直分かりません。

此処まで読んでくれて大変有難う御座いました。

とある少女の探偵観察（UN・GO 新十郎 梨江）（前書き）

どうもこんばんは。

今回の作品は、タイトルからお察しの通りUN・GOの作品で、話
は殆ど梨江の視点で語られています。

今秋アニメのSSを書くのは私自身初めてなので、面白いかは解り
ませんが、温かく見守ってください。

とある少女の探偵観察（UN・GO 新十郎 梨江）

初めの印象は一言で言えば“変人”。

ただそれだけだった。

お父様の事を愚弄したかと思えば、パーティーで周りの客に囲まれた私を助けただけでなく加納会長に取り入るうしたり、全く訳の分からない人だった。

「敗戦探偵さんの出番はありませんから！」

挙げ句の果てにお父様の推理にケチを付けた時は、さすがに我慢の限界だった。

だけど、特別室で奥様の目の前で推理を語る姿を見た時は、自分の中である人に対する何かが変わった。

「人間は墮落する。それは…聖女も英雄も止められない。それが…救いだ」

ああ、そうか。

この時、私は彼の本当の姿を見えた様に思えた。

彼はあんな風に冷めた言い方をしているけど、本当は“誰もが幸せになれるように”と言っただ一つの想いを胸に事件を解決し、自ら汚れ役となる人なのだ。

そう思うと、私の中で彼の印象が変わっていった。

「美しい物を美しく終わらせる…俺達には縁のない話だ。堕ちている途中なんでね」

去り際の彼の言葉には、不思議と彼とはまた会えそうな予感が感じられた。

「結城新十郎……か」

その時私の脳裏には、彼の名前と去り際に言い残したあの台詞が何
度も巡り回っていた。

とある少女の探偵観察（UN・GO 新十郎 梨江）（後書き）

初めてのUN・GO小説でした。

正直初めてだったので、何度も書き直した結果、あの様な作品になりました。

梨江の気持ちの中には、1話を見て私が思った新十郎の印象の考えも若干有り、書いていて“小説じゃない様な気が…”と考えてしまつて戸惑つてしまい、書き終わった今でも、“こんな感じで良かったのかな？”と思つてしまいます。

正直、感想を書いてくれる人がいたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7585x/>

交差箱のハーモニー

2011年11月13日14時55分発行